

避難所データを活用して

酒井 ひかる

1. はじめに

私が今回注目したのは避難所のデータです。いつどのような災害が起こるのか、それを100%予測することは誰にもできませんが、その為に現存するデータを利用し今より良い災害時に対する備えができないかと考えました。

2. アプリについて(1)

私が提案するのは“避難後にお互いの位置を知るためのアプリ”です。この説明では簡潔過ぎて少しわかりにくいと思います。もう少し具体的に説明します。まず、このアプリは災害が起き、各々が避難した後に使います。そして、対象者は大まかに3つの立場の人に分かります。

1、“自分の情報を登録する人”

避難された方は、自分の情報(氏名、振り仮名、生年月日、避難所)を登録します。イメージは右のような図になります。

登録

氏名: 姓
氏名: 名
ふりがな: せい
ふりがな: めい
生年月日: 1993
:
5
/
16
避難所: 都道府県

登録

2、“相手の情報を得たい人”

災害に合われた方が今どこに避難されているのか。同じ状況下の方、若しくは遠く離れた地方で心配される方々が数多くいると思います。そのような方々の為に、知りたい相手の情報(氏名、振り仮名、生年月日)を入力し、検索します。完全一致するものかあれば、検索している人と避難所までの現在地をマップ上に表示します。必要があれば、ルート案内もします。また、すぐに連絡が取れるように電話番号等の避難所の詳細も表示します。

3、“避難所の方、スタッフ、情報管理者など”

その避難所には誰がいるのか。csv ファイルなどにして、一括登録できるようにします。

4、アプリについて(2)

これまでも人を探すアプリや web サービスはありました。しかし、ヒットする件数や入力項目が多いのではないかと感じていました。私が提案するこのアプリは氏名、振り仮名、生年月日の完全一致であり、特に生年月日の情報は家族など親しい人などしかわからないかもしれません。しかし、実際に災害が起きた際のことを考えると、携帯電話等のバッテリーがいかに大切であるかわかると思います。従って、探す手間や入力の手間を少しでもなくし、そこでの電池の消費を抑えたいと思いました。

3. 最後に

3年前、東日本大震災が起きたとき、誰がどこの避難所にいるのかわからず、探し回った方々が数多くいたと聞きました。もちろん、災害は起きないことが最も望ましいのですが、もし再びあのような大災害が起きてしまったとしたら…。大切な人の安否は誰もが一番に得たい情報であると思います。これまでの事例を教訓に、少しでも多くの方々にいち早く情報を提供し、少しでも早く安心して欲しいと考えました。以上のことから、私はこのアイデアを提案します。